

H 2 7 年度 学校協議会 第 1 回 議事録

平成 2 7 年 6 月 2 3 日 (火) 午後 6 時 0 0 分
大阪府立住吉高等学校 会議室

委員紹介

大阪大学名誉教授・台湾大学客座教授	
放送大学客員教授	笠井 俊夫 様
大阪大学ナノサイエンスデザイン	
教育研究センター特任教授	奥山 雅則 様
ベネッセコーポレーション大阪支部	安部 亨 様
大阪市立昭和中学校 校長	田積 直子 様
住吉高校後援会会長	波々伯部 益尚様
住吉高校 P T A 会長	宮川 玲 様

本校出席者：校長、教頭、事務長、山中、久世、藤井、斎藤、乾、永山、加藤、中山、木村

学校からの報告

【校長】国際文化科では TOEFL 等、成果が上がっている。海外への進学も現時点で 1 2 名となっており増加している。阪大の外国語学部へ現役で 3 名合格するなど成果が上がっている。

一方、総合科学科については、はなばなしい成果が見えづらい。

また後で報告もあるが、遅刻については今年度は激減しており、学校内の落ち着いた環境につながっている。

【進路指導部 乾】国公立大学への現役の進学者数は一昨年、昨年、今年と増加傾向にある。海外への大学へも昨年に続き、確定しているものと予定のものを合わせて今年も 1 0 名を超える。

【国際文化科 斎藤】今年度新しく位置された SET に TOEFL 対策の担当も担ってもらっている。全体の 5 % の生徒が iBT 60 点以上というのが数値目標。TOEIC、GTEC とともに頑張っている。

【国際交流 藤井】それぞれ関連を持たせることを意識して各事業をおこなっている。現在、受け入れ・海外研修とも 5 事業を行っている。留学生はさまざまな国籍の生徒を受け入れている。

【SSH 加藤】

2 期目として、英語での発表に力を入れている。今年度は新たに沖縄科学研修を新設する。SSH 3 期目へとつながる活動を進行中。

【ユネスコ 山中】カンボジア研修とその報告会を行っている。国際文化科の「総合」の授業では今後 3 本の講演を準備している。

【生活指導 永山】遅刻指導のシステムを変更し、遅刻数の大幅減につながった。

(昨年同期の 1 / 3 以下)。自転車の法規が改正され、校内でも対策に追われている。SNS への取り組みも急務。

意見・議論

- (委員) 有名私学に進学者が増えていることを大いに評価したい。私立大学の実力も高まっている。国公立大学への進学一辺倒ではないアピールも必要では？
- (学校) 生徒の希望する先への進学を進路実績と捉えるなら、国公立への進学希望が多い現状からは、国公立への進学数に焦点があたるのはしかたがない。海外への進学や、大学院への進学の祭には、現在住吉高校で行っている TOEFL 対策が生きてくる。
- (委員) 入試制度の変更により、新入生の様子や意識が変化したか？
- (学校) 今年度は若干倍率が下がったが、生徒の層に大きな変化はない。今年の1年は礼儀正しく積極的という印象を持っている。
- (委員) 遅刻の激減は感動的である。これだけ減るのだなあと。教員全体の指導の成果であろう。
- (学校) 「当たり前のことをちゃんとしよう」と言う姿勢でいる。毎日の登校時に生徒に挨拶をしているが、今年は挨拶を返してくれる生徒が非常に多い。
- (委員) 報告により先生方の苦心がよくわかった。進学もばらつきなく全ての生徒に対応していただいている。進学結果の数字にも表れている。昨年度は遅刻の多さに驚いたが、今年は改善が数字に表れていて素晴らしい。自転車指導にもいち早く取り組んでいただいて、学校側からプリントを配布してくれて感謝している。
- (委員) SSH を3期でも更新をという要望をよく耳にする。そのためには現在の取組みへの成果が伴わないといけない。更新への手応えは？
- (学校) 本校の中間評価は上から2つめのBランクに位置している。今後の課題研究についての取り組みが、更新へのポイントとなるだろう。課題研究への評価方法の確立と、2～3年生へのアプローチの方法をさらに機能的にすることが大切。
- (委員) SSH では国際文化科のように見てわかる成果があればいいのだが。(大学の研究でも) 予算を獲得するのが上手な研究者がいる。ポイントの強調が必要。
- (委員) SSH では過去の例を参考にするよりオリジナリティが大切。何か新しいことをやりかけて、それを継続していくために3期目の更新が必要というよう仕向けていくことが必要だろう。例えば、これまでの成果を論文にまとめる、国際共同研究では中山女子高校との交流をスタートさせる、新聞等への報道提供も積極的に行う、等の取り組みが大切。
- (学校) アブラナ科やクラゲの研究は有望であり、英語での論文作成も視野に入れていいのでは。
- (委員) 地元から理解され進学実績の伸びた学校には、遅刻の減少・英語力の増強・センター試験受験数の増加という共通点がある。住吉高校に入学時点では京大を目指せる生徒も複数在籍している。それらの生徒を伸ばすことが、地域からの賛同を得ることにつながる。また、海外のトップの大学も狙えるはずである。
- (委員) 高等学校のデジタル化・ICTの現状はどうか？タブレットは小中ではもう積極的な活用が始まっている。中学校でタブレットを使っていたのに、高校では使わない、と卒業生が言っている。
- (委員) Skype をSSHにも活用するのは？Skypeでミーティングができるのではないかな。
- (学校) 本校でもタブレットの充実を図っている。しかし、学校の通信容量に制限があるのですべての生徒がタブレットで授業できる環境ではない。大阪府全体の問題である。

